

【効能と応用】 涼血止血にのみ働き、血熱の吐血・鼻出血・齒齦出血などに用いる。

【用量】 3～6g，煎服。

## 第4節 清熱燥湿薬（せいねつそうしつやく）

清熱燥湿薬の性味は苦寒が多く、苦で燥湿し寒で清熱し、湿熱内蘊・湿邪化熱による熱感・口が苦い・尿が濃く少ない・下痢・腹痛・黄疸・関節の腫脹疼痛などの症候に適する。

なお、本節の黄連・黄芩・黄柏・竜胆草などは、清熱瀉火・清熱解毒の常用薬でもあり、相互に参照されたい。

清熱燥湿薬は苦燥で傷陰敗胃しやすいので、一般に津液虚損や脾胃虚弱には使用しないが、必要があれば滋陰生津や益胃の薬物とともに用いる。

### ■ 黄 芩（おうごん）

【処方用名】 黄芩・淡黄芩・淡芩・子芩・枝芩・尖芩・条芩・枯芩・片芩・炒黄芩・酒芩・酒黄芩・酒炒黄芩・黄芩炭・オウゴン

【基 原】 シソ科 Labiatae のコガネバナ *Scutellaria baicalensis* Georgi の周皮を除いた根。内部が充実し、細い円錐形をしたものを条芩、枝芩、尖芩などと称し、老根で内部が黒く空洞になったものを枯芩、さらに片状に割れたものを片芩と称する。

【性 味】 苦，寒

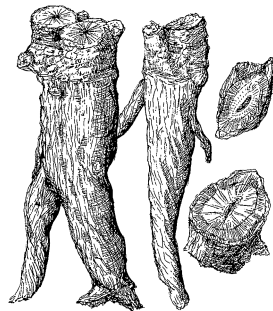
【帰 経】 肺・大腸・小腸・脾・胆

【効能と応用】

#### ①清熱燥湿

湿温・暑温初期の湿熱鬱阻気機による胸苦しい・腹が脹る・悪心・嘔吐・尿が濃いなどの症候に用いる。

湿が熱より重いときは、滑石・白豆蔻・通草などと使用する。



【方剂例】 黄芩滑石湯

熱が湿より重いときは、茵陳・木通・連翹などと使用する。

【方剂例】 甘露消毒丹

湿熱中阻の痞え・腹満・嘔吐には、黄連・乾姜・半夏などと用いる。

【方剂例】 半夏瀉心湯

大腸湿熱の下痢・裏急後重などの症候には、白芍・葛根などと用いる。

【方剂例】 黄芩湯・葛根黄芩黄连湯

湿熱黄疸には、茵陳・山梔子・柴胡などの補助として使用する。

#### ②清熱瀉火・解毒・涼血

肺熱の咳嗽・呼吸促迫・黄痰などの症候には、桑白皮・知母・麦門冬などと用いる。

【方剂例】 清肺湯

上焦火熱による高热・口渴・咽痛・煩躁などの症候には、薄荷・連翹・山梔子・竹葉などと使用する。

【方剂例】 涼膈散

上焦火盛による咽喉の腫脹・疼痛や火毒による皮膚化膿症（瘡瘍）には、金銀花・連翹・牛蒡子・玄参などと用いる。

血熱妄行の鼻出血・吐血などには、大黄・黄連・山梔子などと使用する。

【方剂例】 黄连解毒湯・三黄瀉心湯

#### ③清熱安胎

妊娠中の蘊熱による下腹痛（胎動不安）に、当帰・白芍・白朮などと使用する。

【方剂例】 当帰散

#### 臨床使用の要点

黄芩は苦寒で、苦で燥湿し寒で清熱し、肺・大腸・小腸・脾・胆経の湿熱を清利し、とくに肺・大腸の火の清泄に長じ肌表を行り、安胎にも働く。それゆえ、熱病の煩熱不退・肺熱咳嗽・湿熱の痞満・瀉痢腹痛・黄疸・懐胎蘊熱の胎動不安などに常用する。また、瀉火解毒の効能をもつので、熱積による吐衄下血あるいは癰疽疔瘡・目赤腫痛にも有効である。とくに上中二焦の湿熱火邪に適している。

#### 【参 考】

①黄芩には、枯芩（片芩，中空の古い根）と条芩（子芩・枝芩・尖根，若い充実した根）の区別があり、枯芩は軽くて上達し肺火を清し、条芩は重くて下達し大腸の火を清する。現在では区別せずに使用している。

②生用（黄芩・淡黄芩）すると清熱瀉火に、炒用（炒黄芩）すると寒性が減つ